

The Miraculous Prayer of Jabez

じざかい
地境を拓げ 壁を突破する

ヤベツの 奇跡の祈り

エハン・デラヴィ
愛知ソニア
平野耕一

3000年の
彼方から届いた
旧約聖書の
メッセージ

孤独と諦めと生きづらさに
囚われたこの世界で
自分自身の壁をぶち壊せ！
祈る／委ねる／空の器となる／直感を信じ抜く
神という最高の他力を
味方につける方法

毎日の小さな奇跡を導く
『ヤベツの奇跡の祈り』著者
メッセージビデオ付



ヤベツはイスラエルの神に呼ばわって言った。

「私を大いに祝福し、

私の地境を広げてくださいますように。

御手が私とともにあり、

わざわざいから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいませますように。」

そこで神は彼の願ったことをかなえられた。

聖書には、誰も気づかない

「隠されてきた宝」と呼ばれる

祈禱文があるという。

「私をおおいに祝福し、

私の地境を広げてくださいますように。

御手が私とともにあり、

わざわざいから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいように」

「歴代誌第一」という、聖書の中でも

目立たない箇所に密かに記されていた

この短い【ヤベツの祈り】は、

数千年のあいだユダヤ教徒やクリスチャンの人々からさえも忘れ去られていた。

しかし、時空を超えた現代日本で今、

この小さな祈りが

人々の心に大きな変革を起こしつつある。

自分も他人も信じられず

抛よるべき共同体も指針も失った人々に残された

最後にして最大の「味方」とはいったい何か。

すべてを独りで背負いこむ生き方から「委ねる」生き方へ

常識や計画に縛られた人生から「直感にしたがう」人生へ

奪い・溜め込む思考から「与え・手放す」喜びへ

不満まみれの過去から「祝福と幸せに満ちた」今この瞬間へ

変化を起こさずにはいられないこの祈りは、

私達が自らつくった

常識・社会・評価・価値観……

あらゆる“壁”に問いを突きつける。

《もうそろそろ、そんな苦しい生き方はおしまいにならないか》と。

3000年の彼方かなたから届いたこの旧約聖書のメッセージは、

今この瞬間も宗教の別なく降り注ぐ

天からの恩寵おんちやうの存在を、繰り返し、繰り返し、訴えかけ続けている。

祈れ、そして大いに祝福を受けよ。

もしそれが真実なら、試してみないか。

神という最高の味方とともに歩む生き方を――

地境を拡げ 壁を突破する
ヤベツの奇跡の祈り

第 1 章

〔目次〕 地境を払げ 壁を突破する ヤベツの奇跡の祈り

ヤベツとは何者か／この祈りは何処で生まれたか

- ヤベツの祈りとの出会い…………… 14
- 祈りが呼んだ不思議な飛行体…………… 14
- 実現不可能な願いの扉を開いた祈りのパワー…………… 17
- 人生の6つの節目にはいつもヤベツの祈りがあった…………… 19
- 旧約聖書の隠された宝…………… 23
- 痛みと悲しみの中で生まれてきた男、ヤベツ…………… 26
- 父親不在の困難…………… 28
- 異邦人だったヤベツ…………… 29
- ヤベツの5つのクオリティ…………… 30

ヤベツの祈りはあなたの壁を打ち破る

聖書の世界観——神・人・霊（スピリット）…… 36

求めよ、さらば与えられん…… 38

ヤベツの祈りは十字架の祈り…… 43

シンプルな4つの行を読み解く…… 44

(1) 私を大いに祝福してください…… 46

(2) 私の地境を広げてください…… 50

(3) 御手が私とともにありますように…… 52

(4) わざわいから遠ざけ苦しむことがありませんように…… 56

そこで神は彼の願いをかなえられた…… 59

ヤベツが祈ったイスラエルⅡヤコブの神…… 61

大いなる存在に委ねて生きる…… 67

ヤベツの祈りを実践する

- ヤベツの祈りで奇跡が起こり始めた！……76
- ヤベツの祈りは意識覚醒を起こす……79
- 「魔の刻」に忍び寄る怖れや不安を打ち砕く……82
- 自由な祈りと型の祈り……86
- 神の《臨在》を求める祈り「祝福してください、今！」……90
- 天と地の間で祈りのエネルギー循環を起こす……92
- 願いが聞き届けられないのは、最良のプランが他にあるから……96
- 神の祝福を記録する……100
- 祈りの実践……103
- (1) 一人で祈る……104
- (2) 家族や夫婦で祈る……114
- (3) グループで祈る……116
- (4) 宣言の祈り……117

第4章

ヤベツの祈りー週間トレーニング …… 120

現代社会とヤベツの祈り

- 90年代以降の宗教アレルギー …… 130
- 「人生の意味」の喪失が心を蝕む^{むしば} …… 131
- 日本を支配する「真面目の霊」 …… 137
- 空の器を持ってきなさい …… 142
- 聖書と量子力学 …… 148
- 私は弱い、ゆえに強く在れる …… 155
- 両親との記憶Ⅱ自分にとっての神 …… 159
- 神のイメージをぶち壊せ！ 悩み、迷い、変化する神 …… 162
- 考えている間に神は去る …… 169
- 矛盾は悪ではない …… 172
- 女性にとってのヤベツの祈り …… 175

第5章

- 子育て世代のための祈り…… 179
子供は神様やお祈りが大好き…… 184
神という最高の他力を味方につける…… 189

神の恩寵はあまねくすべての人々に

- シャーマニズムとカトリックが共存する寛容な南米社会…… 194
宗教のくびきを超えていけ…… 196
神の道を説く人々の悲しい分裂…… 199
ヤベツの祈りは宗教を超越する…… 203
暗闇を好む神…… 207
祈りは天から人類全員に等しく与えられた贈り物…… 211

参考文献…… 218

毎日の小さな奇跡を導く『ヤベツの奇跡の祈り』…… 219
著者メッセージビデオについて…… 219



本書は2017年11月13日(月)に行われたエハン・デラヴィ氏・平野耕一氏の対談、同12月18日(月)に行われたエハン氏・平野氏・愛知ソニア氏の鼎談の内容をもとに構成したものです。

取材に際し多大なご協力をいただいた東京ホライズンチャペルの皆様に篤く御礼申し上げます。

本書で引用した聖書本文の出典は以下のとおりです。

『聖書 新改訳』©1970、1978、2003新日本聖書刊行会

『聖書 新改訳2017』©2017新日本聖書刊行会

※新改訳2017が出典の場合は、章・節番号の後に*を付しています。

第 1 章

ヤベツとは何者か／
この祈りは何処で生まれたか

ヤベツの祈りととの出会い

祈りが呼んだ不思議な飛行体

エハン・デラヴィ 僕と妻のソニアが初めて「ヤベツの祈り」に出会ったのは、たしか2000年頃のこと。アメリカでちょうどブルース・ウィルキンソン氏の『ヤベツの祈り』（邦訳版…いのちのことば社）が出版されたときのことでした。この本は、瞬く間に全米で1000万部を超える驚異的ベストセラーとなり、多くの人の知るところとなりました。

以来、この祈りは僕達の人生を何度も支えてくれました。

愛知ソニア 今から5年前、私達は移民先のカナダから日本に戻り、この地でまた一から生活を始めることにしたのです。思えば、私達の人生は「ゼロからスタートする」という機会が何度もありました。

そのたびに「あ、ヤベツの祈りがあった」と思い出して、必死に祈る。そのことで奇跡としかいえない出来事が起こり、道が開ける。

でも、状況がよくなると忘れてしまうわけです。それでやらなくなつて——そしてこの間、はっと冷蔵庫のところに茶色くなつた「ヤベツの祈り」の紙が貼つてあるなつてことに気づいたのが、2カ月前くらいのことです。

それからまた、ヤベツの祈りを毎日行うようになり、ふたたび素晴らしい境界の広がりを経験するようになったのです。

しかも、私達だけでなく、今回はヤベツの祈りを教えた周りの人達もです。「窮地を救われた」「次々と仕事が舞い込んでくるようになった」など、現実に大きな変化が起きたという声が数々寄せられています。

エハン 僕が初めて「祈り」に目覚めたのは、今からおよそ20数年前（1993年）のことです。当時、カナダで不動産投資業を運営し、結構な収入を得ていましたが、バブルが弾けたことで、文字通り、一晩ですべてを失つた。目の前の現実も、思い描いていた未来も、全



エハン・デラヴィ

部がガラガラと音を立てて崩壊していくのをなすすべもなく見ているしかなかった。

その夜、外に出て、天を仰いで叫びました。

「神様、なぜこんな仕打ちをするのですか。本当にあなたはおられるのですか。もし本当にいるのなら、今、ここでその姿を見せてください！」

そのときの自分はなれば自暴自棄であつたけれど、ここで神が姿を見せないなら嘘だと思つた。それは僕の捨て身の祈りだったので。

虚空に叫びの響きが消えていったと思つた直後、夜空に眩い何体もの光体が現れました！ 茫然と目の風景を眺めながら、悟りました。

これが、僕の問いに対する神の答えなのだ。

すなわち、神は存在するのだ。

それから、不思議な光体たちは約1カ月もの間、毎晩、僕達の家の上に現れ続けました。このことをきっかけに、僕はスピリチュアルな叡智の学びへの関心を深めていくことになったのです。

実現不可能な願いの扉を開いた祈りのパワー

ソニア 祈りっていうのはすごく大切で、今エハンさんが言った出来事の前にも、一度助けられたことがあります。

私達は1989年にカナダに移民したんですね。最初は観光ビザで、子供3人と犬1匹を連れて、ものすごく大胆なことをしたのね。それであらためてビジネスビザを申請して、取得までは1年間かかるんですけども途中までは順調にっていました。

でも、最後の難関が「資本金」。あの当方で1000万円っていうすごいお金で、それがないわけなんです。ああ、最後のところでもうこの1000万がないために、ビザが下りない、日本に戻らなければならぬ。

窮地に陥った私達は、何十人という人々に手紙を書いたんですね。「これこれこういう状態なのでお金を貸してください」って。もう恥も外聞もないんです、必死だから。で、



愛知ソニア

手紙を書いて、誰一人——親戚はもちろん、誰も無視で。友達も「それはできない」
って言うて。

絶望しました。

それで私はカナダの海岸に犬を散歩しに連れて行ってね、

「この土地の神様に祈ります。どうか私達を受け入れてください」

って毎日、毎日、毎日祈っていたら、1カ月ぐらいしてから、エハンさんの昔の患者さん（エハンさんは以前、鍼灸師をしていた）から突然連絡が入ってきたんです。

「ちよつと噂に聞いたんだけど、あなた達、お金必要なんですか？」って。

エハン 聞くと、ちよつど彼のおじさんが亡くなって、1000万円相当の遺産を相続した。それで自分達には今は必要ないから使ってくれ、と。

3カ月ほどの付き合いしかなかったんですよ、彼とは。イギリス人の素晴らしい男性だったけど、当然、そのようなわけで彼には直接手紙を送っていなかった。しかし、
どういう経緯か僕達の苦境が彼の耳に届いたわけです。

そのお金を使って、僕達は無事にカナダに移民できました。

そして、1年後、14パーセントの利子をつけてお金を返済し、彼にもとても喜んで
もらえたわけです。

人生の6つの節目にはいつもヤベツの祈りがあった

エハン 今、日本では、抛るべき共同体が失われ、自分の力しか頼れない多くの人が、人生の苦難に独り立ち向かう、孤独で絶望的なレースを強いられ続けている。

この閉塞感へいそくかんを祈りの力で打ち破れないか。

そう思ったのが、僕がふたたびヤベツの祈りに関心を抱くようになった一番の理由です。

それで、ヤベツの祈りのことを調べていくうちに、ウイルキンソン氏の邦訳本に先駆けて日本語で『ヤベツの祈り』（プリズム社）を出版されていた平野先生のことを知ったのです。

平野耕一 そしてすぐに連絡をくれて訪ねてきてくれた（笑）。

エハン ええ、僕は思いついたら「ピッ」ですから。

平野 私は15歳でクリスチャンとなり、18歳で東京聖書学院入学、22歳でアメリカ留学に旅立ち、そのまま現地で牧師活動に就きました。22年間の海外生活に終止符を打って帰国した後、東京ホライズンチャペルを開き、伝道を続けて74歳の今に至ります。

私はこれまでの人生で6回、ヤベツの祈りとかいこうの邂逅を果たしています。

最初は、17歳のとき。当時通っていた教会の牧師がね、講演旅行に行かれて、小さな教会でしたから奥さんが代わりにお話をされたことがあったんです。そのときに「私はこのお祈りをしてるんですよ」って教えてくれたのがヤベツの祈りでした。それでしばらくはお祈りしていたんですが、いつの間にか忘れてしまっただ。

2回目はそれから10年後、アメリカのテネシー州にいた27歳のとき。牧師に誘われて行ったとある集会で、メインスピーカーのビジネスマンガヤベツの祈りについて話していたんです。

3回目は1970年代に、人生の目的を失い迷っていた何万人ものヒッピーたちに救いの手を差し伸べた名牧師、チャック・スミス氏の著作で、私自身が翻訳出版（1993年）も手がけた『力を解放する祈り』の中で。全米で300万部のミリオンセラーとなったこの本の中で、スミス氏は「結果を生み出した祈り」としてヤベツの祈



平野耕一

りを紹介し、「彼の言葉を学ぶうちに、私たちは祈りについての非常に大切な洞察を得るでしょう」と書いています。

4 回目は、1996年の私自身が行った教会の元旦礼拝の基調聖句において、ちょうどその頃、『力を解放する祈り』に大いに影響を受け、ヤベツの祈りを日々実践していた私は、その年の幕開けにヤベツの祈りについて語りました。元旦の基調聖句はその年の日曜礼拝で繰り返し語られることとなります。そしてその年、私たちの教会は地境を広げるこの祈りそのままに飛躍的な拡大を遂げました。

5 回目は、ウィルキンソン氏の著作『ヤベツの祈り』によって。すでにこの祈りの効力を何度も体験していた私に、この本はこれまで自分が受けた数々の祝福がこの祈りの賜物たまものだったことを再確認させてくれました。この本から刺激を受け、私も独自の『ヤベツの祈り』を上梓じょうしすることになりました。

そして6 回目——それがエハンさん、あなたとの出会いです。この祈りを口にすることもまばらになり、期待感も消え失せかけていたときに、あなたがふたたび大いなる福音の言葉を携えて訪れ、私の情熱に火を点けてくれたのです。

エハン ヤベツの祈りは先生の人生にどのような変化を起こしてくれたのですか？

平野 クリスチャンとなった当時の私の世界は、家と高校と教会だけ。この小さな範

困を行き来して生きていた私の地境は、この祈りによって爆発的に広がっていきま
した。

両親や兄弟姉妹、親戚にも一人もクリスチャンがいなかった私が、神に目を開かれ、
教会や聖書学校に入り、素晴らしい師や友人に恵まれ、資金も身寄りもないのに新天
地・アメリカに飛び立つことができた。

アメリカでも、生涯の伴侶とめぐりあって結婚し、子供に恵まれ、やがて、拙い英
語ながらも教会牧師として受け入れられ、アメリカ全土をぐるり一周するように信仰
の道に携わることができた。

帰国してからも、裸一貫から東京ホライズンチャペルを興し、キリスト教書籍の出
版のためにプリズム出版社も創設しました。その後も教会は成長を続け、今では、世
田谷、町田、給田、青梅、横浜、湘南、四街道、松戸、狭山、飯能、軽井沢、名古屋
と全国12カ所に支部を持ち、ホライズン・バイブル・カレッジも開校、アメリカ、中
米、ヨーロッパ、アジア、ロシア、モンゴルなど各地への海外伝道もひんばんに行う
ようになりました。

こうして文字にすると一瞬のように思えますが、一つひとつの成功の裏では、脂汗
が出るような大きな決断を迫られることもありました。

エハン そう、僕達も、一つひとつの瞬間が大きな賭けだった。

平野 プレッシュャーや怖れおそを手放し、祈るとおりに動いたら、後は神に委ねる。

そのことで与えられてきた奇跡の連続で「今」があるのです。

60年近くにおよぶ信仰生活を通じて、ヤベツの祈りは私という存在の境界を広げ、15歳の自分が想像もできなかった世界に導いてくれました。

この祈りは人生の壁を打ち破り、未来を変える。

だから、クリスチャンだけでなく多くの人に知ってもらい、実践してほしいんです。

旧約聖書の隠された宝

エハン このように素晴らしい力を持つヤベツの祈りはしかし、旧約聖書の中でも最も目立たない箇所に埋め込まれるようにして記されています。

「歴代誌第一」という部分です。

この「歴代誌第一」という書は、イスラエル諸部族の系譜や歴史を記録したものです。9章にわたって延々と人名の羅列が続く、クリスチャンでも精読する人はな

なかいません。

一部分を抜き出すと、

ユダの子はペレツ、ヘツロン、カルミ、フル、シヨバル。

シヨバルの子レアヤはヤハテを生み、ヤハテはアフマイとラハデを生んだ。これらはツオルア人の諸氏族である。

エタムの父の子は次のおりである。イズレエル、イシユマ、イデバシユ。彼らの姉妹の名はハツレルポニ……

(4章1〜3節)*

という具合です。

ぶつちやけて言えば、退屈、つまらない。多くの人がスルーする。

その中に突如として、このヤベツの記述が出てくるわけです。

ヤベツは彼の兄弟たちの中で最も重んじられた。

彼の母は、「私が痛みのうちにこの子を産んだから」と言って、彼にヤベツという

名をつけていた。

ヤベツはイスラエルの神に呼び求めて言った。

「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。」

御手が私とともにあってわざわざいから遠ざけ、私が痛みを覚えることのないようにしてください。」

神は彼の願ったことをかなえられた。

(4章9〜10節)*

そしてそれ以降、ヤベツの名前がふたたび聖書に出てくることはありません。

旧約聖書でヤベツは忽然と現れ、また忽然と姿を消していく。

平野 実際、ほとんどのクリスチャンは「ヤベツ」という名前すら知らないと思います。「ひそかな所の隠された宝」(イザヤ書45章3節)なのですね、まさに。

歴代誌第一の1章から9章は、マタイ福音書冒頭の系図の25倍も長く、数ページにわたり人名のカタカナばかり。よく冗談で言うのですが、ここに出てくる平仮名と漢字は「生んだ」「死んだ」「部族」「父は」「母は」「兄弟は」ぐらいなものです。

ヤベツの名前はイスラエル諸部族の中のユダ族の系譜の箇所に出てきますが、後で言うように、彼はユダ族でもありませんでした。

私には、まるで、神様があえて暗号のようにこの祈りを聖書の中に隠されたように思えるのです。発見した者の人生をキラキラと輝かす言葉の宝石を。

痛みと悲しみの中で生まれてきた男、ヤベツ

ソニア びっくりするのは、ヤベツの母親が彼を産んだとき、「ヤベツ」（痛み、悲しみ。ヘブライ語で「痛み」を意味する「オツェブ」の語呂合わせ）と名付けたことです。

「兄弟の中で最も重んじられた」と旧約聖書に記録されるほど成功的な人生を歩んだヤベツは、痛みと悲しみ、苦しみの刻印を押されてこの世に生み出された。

平野 現代だったら非難ごうごうになりそうな名付け方ですが、旧約聖書の時代では、このように誕生時のストレートな親の感情にまつわる命名をされることが少なからずありました。

生まれてきたときに親が口にした言葉が、そのまま子の名前になり、そしてそれは子の運命を予言するとも言われていました。

双子の兄のかかをつかんで生まれてきたことから「あざとい者」という名前を付けられたヤコブ（太祖アブラハムの孫、イサクの子であり、イスラエル12部族の祖となった）もそうですね。

ヤベツの母親が具体的にどのような境遇にいたのかまでは聖書には書かれていません。しかし、経済的にも、医学的にも、たいへんな苦境にあったのではないかと私は推察しています。

なぜなら、父系であった当時のイスラエル社会において、ヤベツの父親の存在について聖書にはまったく書かれていない。おそらく、何らかの事情で父親不在の家庭であり、家計も困窮していただろう。母親への精神的重圧は想像に余りあるものがあり、そのことが難産を招いたり、胎児の健康に影響を与えたりしたとしてもおかしくはありません。

生まれた際に思わず母親が「ヤベツ」（痛み）と言ってしまうくらいの姿をしていた。このことから、私は彼が体に何らかの障害を持っていたのではと想像します。

父親不在の困難

エハン 父系社会にあつて「父親がいない」というのは相当な負い目だったでしょうね。

平野 一家を支える大黒柱がいないという経済的な問題ももちろんですが、「ソロモンの子はレハブアム。その子はアビヤ、その子はアサ、その子はヨシャファテ……」（歴代誌第一3章10節）^{*} というように、自身の父親の系譜を重要視する社会において、「自分の父親は誰々だ」と大っぴらにできないのは、我々からは想像できないほど精神的にも苦しいことだったでしょう。

現代だって、子供たちは親が思う以上に、親のことを誇りに思っています。いつだって、子供は自分の親のことを自慢したいと思っているんですから。

旧約聖書時代のカナン（現在のイスラエル、パレスチナ辺り）では、職業は基本的に世襲制でした。農夫の子は農夫、大工の子は大工というように、親から子へと代々受け継がれていたのです。だから仕事はすべて父親が息子達に教え込むものでした。

生きていくための「技術」を教えしてくれる父親が不在という事態は、その子の人生にとってかなり痛手だったのです。

まさにヤベツの人生はマイナスからのスタート。

ヤベツの祈りは「マイナスからの逆転をもたらす祈り」なのです。

異邦人だったヤベツ

平野 実は、ヤベツに与えられた試練はそれだけではありませんでした。

ヤベツが登場する歴代誌第一4章は、当時のエリート部族だったユダ族の系譜が書かれています。

しかし、クリスチャン研究者たちのレポートを読んで、私は、ヤベツはユダ族ではなく、「レカブ人」(Rechabites)と呼ばれる民族の出身ではないかと考えるようになりました。

レカブ人は、ユダ族とともにアブラハムが神から約束された地・カナンにやってきましたが、ユダ族とは袂たもとを分かち、荒野で独自の共同体を形成し、遊牧生活を送って

いた民族でした。

たいへん謙虚な民族で、神が預言者エレミヤを介して「ぶどう酒を飲みなさい」と彼らの信仰心を試したときも、「ぶどう園を設けてはならず、ぶどう酒を飲んでもならない」との神の命を固く守り、エレミヤからの酒を固辞しました。

そのように慎ましい民族であり、イスラエル人にも貢献していたため、バビロニアのネブカドネザルが襲来したときも、エルサレムの城壁内に入れてもらえ、難を逃れることができたのです。

それでも、ユダ族にとつては異民族に等しい存在です。

だから、レカブ人として生まれたヤベツは、貧困、父親不在に加えて、「異邦人」「よそ者」というくびきも負っていたことになる。

ヤベツの5つのクオリティ

エハン このように、はた目から見れば、不幸と困難とともに生まれてきたと感じられるヤベツは、しかし、運命に負けない。誕生のときに与えられた苦しみ、悲しみを

ものともせず、祝福された逆転の人生を歩んでいく。

ヤベツの祈りのすごさはそこにあると思うのです。

ソニア ヤベツという男に対して、平野先生は『ヤベツの祈り』でこう書かれていますね。

「ヤベツは何故、これほど軽いのか」

「何故これほど楽天的なのか」

「何故これほど無邪気なのか」

「何故これほど迷わないのか」

「何故これほどユーモラスなのか」

これはね、神様に好かれる人物たちが共通して持つ大切なクオリティだと思うんです。自分自身を顧みて、この「5つのクオリティ」がどれほどあるのか。

平野 基本的に日本人ってまったくないですよね。こんなこと言ったら「お前、馬鹿か」って言われちゃう。お前おかしいって言われちゃう。

ソニア だから、割と神様とか聖書とか何も知らない若い人のほうが、ヤベツの祈り

をしたらずぐに叶っちゃう。その理由は「軽やかさ」にあるのでしょね。

エハン ヤベツも実に大らかですよね。生まれた境遇など気にせず、自分には恵みを受け資格があると疑いもなく信じて、天を仰いで神に大声で呼びかけるわけです。

「私を大いに祝福してください——い!!」って。

底抜けに明るい、愛すべき人物といえるでしょう。

平野 このようなヤベツが生来持っていた気質に加えて、聖書が語るこの世界の仕組みを理解すると、なぜヤベツの祈りがものすごいパワーを持つのか、よく理解できるようになります。次章では、そのことについてお話ししていきます。